

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（6月中下旬）

1 灰色かび病

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図1）。多湿条件になると発生が多くなりますので、換気を十分に行ってください。

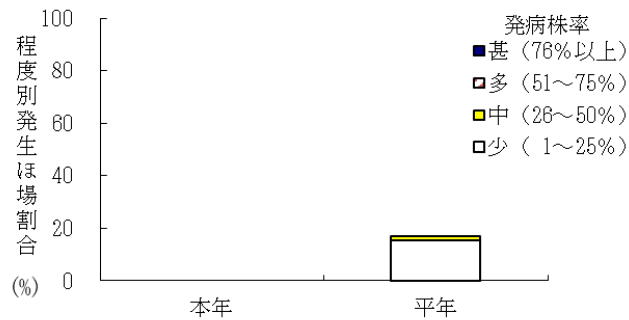


図1 灰色かび病の発生状況

2 葉かび病

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図2）。今後、梅雨入りすると多湿条件により発生しやすくなるので、換気を十分に行ってください。抵抗性品種を作付しているほ場でも発病がみられた場合には、葉かび病かすすかび病かを確認し、適切な薬剤を選択して防除してください。

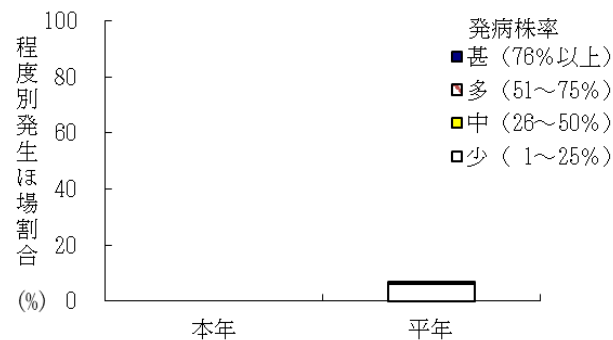


図2 葉かび病の発生状況

3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。ほ場をよく観察し、発生が多くなる前に、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

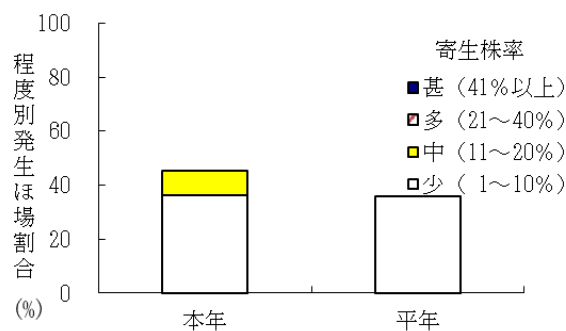


図3 アブラムシ類の発生状況

4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

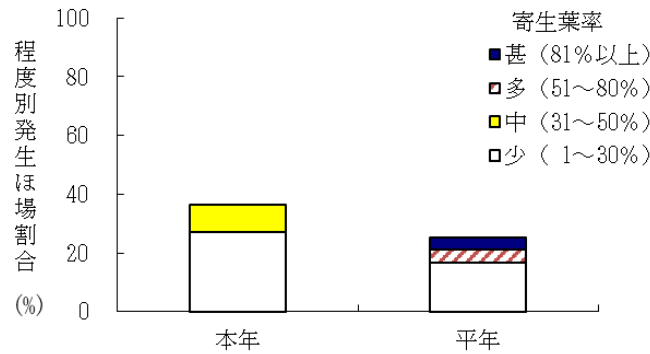


図4 コナジラミ類の発生状況

5 ハモグリバエ類

巡回調査では、寄生は確認されませんでした（図5）。まん延すると防除が困難なので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

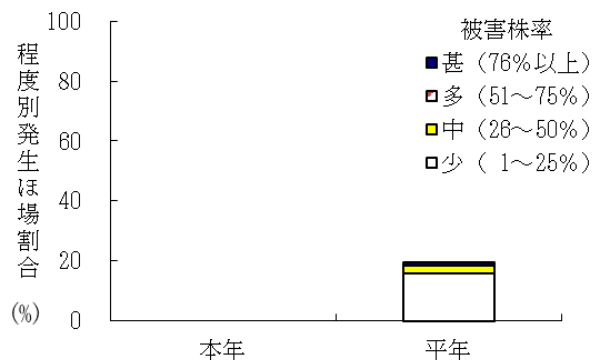


図5 ハモグリバエ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査での発生ほ場割合は、平年並でした。フェロモントラップ調査では、伊達での誘殺時期がやや早く（図6）、誘殺数は平年より多い状況でした。例年がない早い時期に被害が確認されており、今後次世代による被害の増加が懸念されることから6/26に注意報を発表しています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

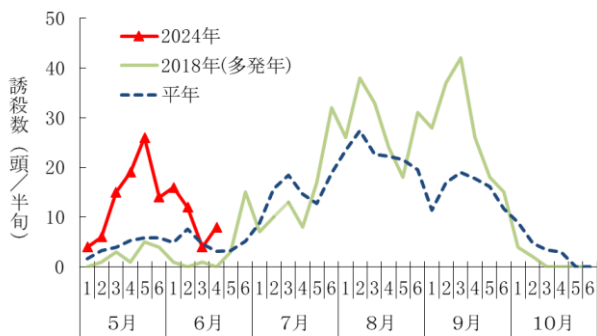


図6 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況 (伊達市保原町:キク)



写真1 果実を食害するオオタバコガ

注意が必要な病害虫

■アザミウマ類

アザミウマ類による葉や花への寄生が、例年多く確認されています。春から秋にかけては周辺の雑草地等で増殖し、常時成虫の飛び込みがあること、生育過程で植物組織中の卵や土中の蛹など薬剤がかかりにくいステージがあることから薬剤のみの防除では十分な効果が得られない場合があります。耕種的防除、物理的防除も取り入れた総合的な防除を行う必要があります。アザミウマ類の果実被害では、大玉トマトでは果実に白ぶくれ症状を起し、ミニトマトでは、金粉症状を起す等、商品価値を大きく失います。ミカンキイロアザミウマは、TSWV等のウイルスを媒介するため注意が必要です。

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp